



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第一八九号）

霜降

十月二十三日

別宮の遷宮始まる

伊勢神宮内宮、外宮の遷御から一年、十二の別宮で遷宮が始まりました。十月六日に伊勢市中村町の月讀宮と月讀荒御魂宮、そして十日に伊佐奈岐宮、伊佐奈弥宮で御神体を新宮にうつす遷御の儀が無事に行われました。

別宮の遷宮についても、立柱祭、上棟祭、のき付祭、薨祭、御戸祭、御船代奉納式、杵築祭、後鎮祭、川原大祓、御飾、遷御、大御饌、奉幣の諸祭が重ねられます。

六日の遷御は台風の影響で取材は延期となり、十日にさせていただきます。

参道にはすでに百八十五メートルの雨儀廊が設けられ、現宮と新宮を結んでいます。この廊下を、ご神体をうつす御列が通るのです。午後六時に集合し、そこから出御の午後八時までひたすら参道に指定された取材場所待ちました。今回はクジ運がよく二番を引いたため最前列に陣取れました。しばらくすると、雨儀廊に敷物が敷かれ、その上に「道敷」と呼ばれる白布が掛けられました。まさしく神様が通られる白い道がお目見えしました。

八時前、境内の灯りがすべて消されると、「浄闇」に包まれました。遷御のときはこの「浄闇」の中、ご神体はうつされるのです。一年ぶりの清らかな暗闇。そこに「カケコー」の鶏鳴三声が響き渡ります。御列の先頭がもつ松明の揺れる炎に、白い道が照らされ、神職の列がゆっくりと進んできました。暗闇の中で火を頼りにすると、日々では体感できない、太古の昔の感覚というのでしょうか、神秘的な闇だと思いました。目の前を、御神体を覆う「絹垣」が通り過ぎ、新宮に着くと境内に灯りが点けられます。ふたたび、現代に戻ってきたように思いました。

文 千種清美

